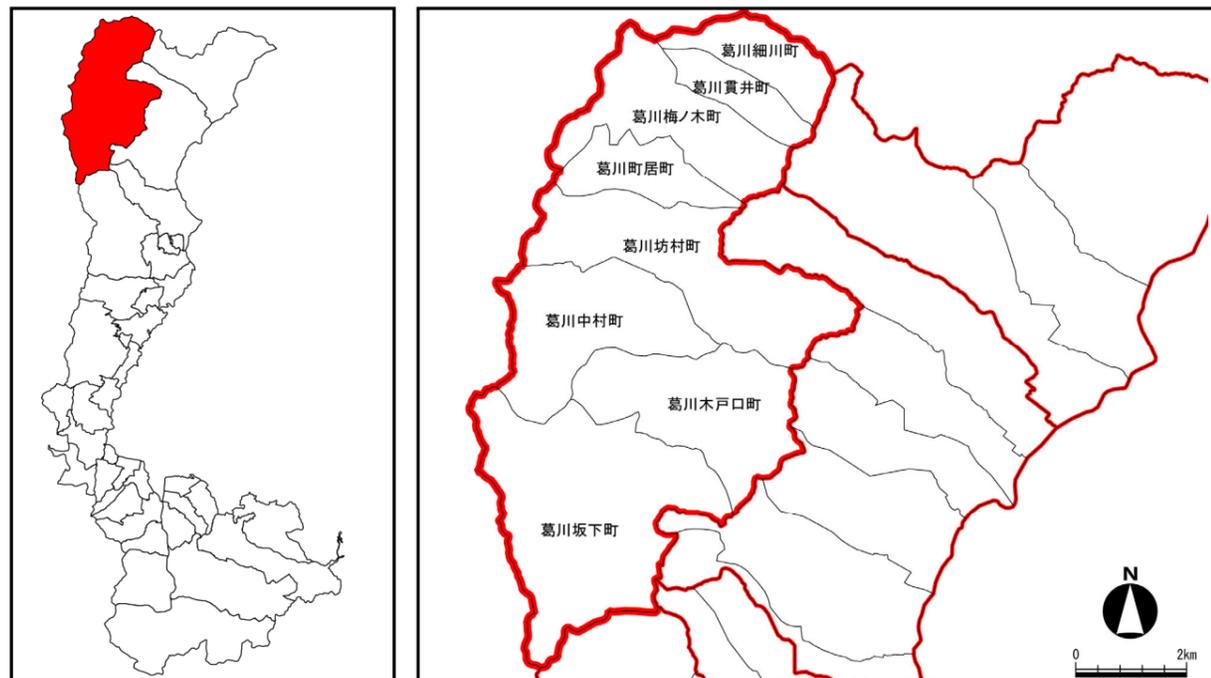


■ 学区の概況



<町丁名>

葛川坂下町、葛川木戸口町、葛川中村町、葛川坊村町、葛川町居町、葛川梅ノ木町、葛川貫井町、葛川細川町

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

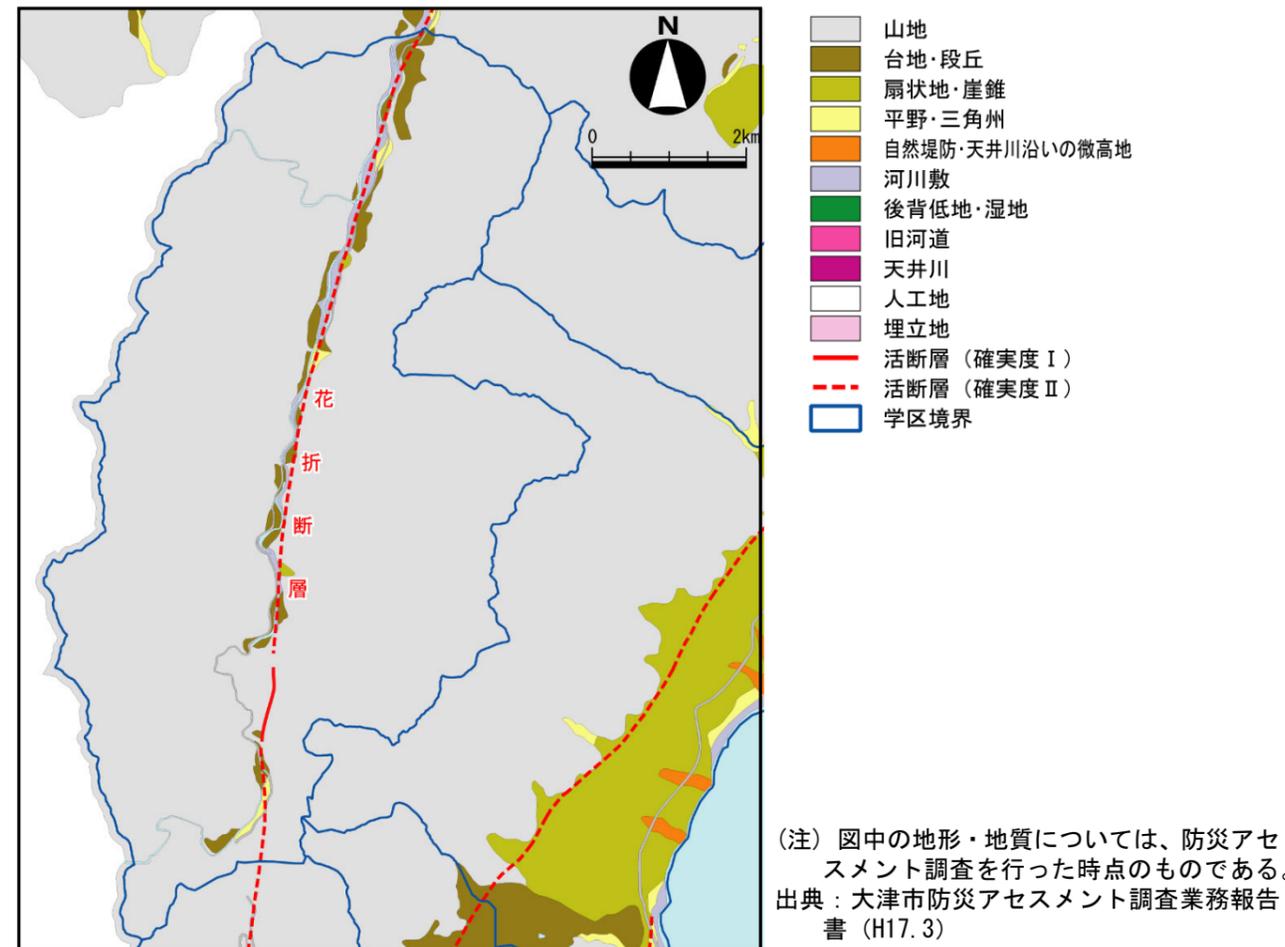
葛川学区は安曇川上流に位置し、比良・比叡山地の西側、花折断層に沿って発達した狭く長大な溪谷にある。そのため平地は少なく、ほとんどが山地である。

豊かな水と緑に恵まれ、河原や森林キャンプ場、少年自然の家などを訪れる人々も多い。

本学区は明王院（葛川坊村町）と共に発展してきたと言える。1,100年前に相応和尚によって開かれた明王院は、足利三代将軍義政の妻日野富子を初め、多くの武将達が参詣した歴史深い寺院である。

学区内を縦断する溪谷沿いの道路は古くから日本海でとれた魚介類を京都に運んだ街道（鯖街道、若狭路）として栄えた。現在では国道367号が南北に通っており、昭和50年には交通難解消のため花折トンネルが開通した。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

<地形の特徴>

- 葛川学区の大部分は山地である。地域の西部には比良山地が北北東から南南西に伸びており、武奈ヶ岳や蓬萊山など1000mを越える山々が分布している。
- 学区のほぼ中央を安曇川が北に向かって流れ、安曇川に沿って河川敷や台地・段丘などの低地が分布している。

<地質の特徴>

- 主な山地部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 比良山地は比良花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。安曇川流域には第四紀に形成された比較的新しい地層が分布しており、それらは主に垂円礫層で構成される低位段丘堆積物である。
- 葛川木戸口町の南方では、急傾斜地の崩壊による崩積性堆積物も見られる。

<活断層の特徴>

- 安曇川に沿って花折断層が北北東-南南西方向に通過している。花折断層は高島市の水坂峠から京都市左京区吉田山付近まで伸びる、長さ約48kmの右横ずれ断層である。本学区では、断層を挟んで西側が隆起する変位地形も見られる。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
葛川坂下町	-	-	92.6	81.0
葛川木戸口町	-	-	95.1	82.1
葛川中村町	-	-	87.2	92.6
葛川坊村町	-	-	93.9	77.4
葛川町居町	-	-	100.0	97.1
葛川梅ノ木町	-	-	84.4	87.7
葛川貫井町	-	-	88.2	73.3
葛川細川町	-	-	90.5	71.9
学区平均	-	-	90.9	82.2
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 木造率の学区平均は 90.9% で市平均 (全学区の平均) の 72.7% を大きく上回る。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 82.2% で市平均の 40.3% を大きく上回る。
- 木造率の学区平均、旧耐震木造建物割合の学区平均とも市内で最も高い。

■ 人口の状況

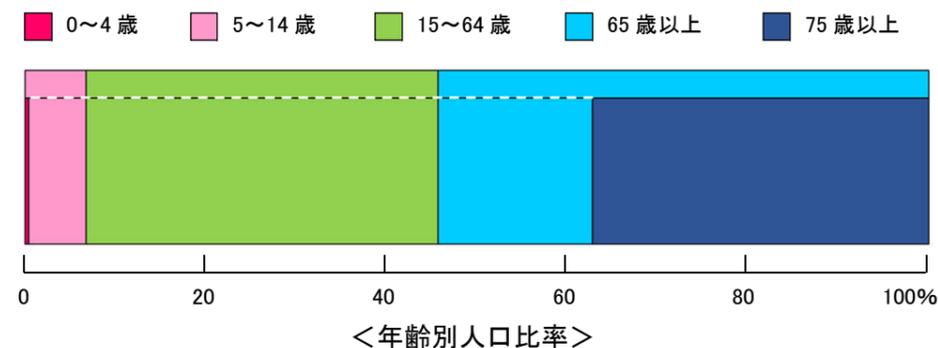
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	223	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	1	人	学区人口に対する割合	0.4	1
年齢別 (5~14 歳)	14	人	学区人口に対する割合	6.3	1
年齢別 (15~64 歳)	87	人	学区人口に対する割合	39.0	1
年齢別 (65 歳以上)	121	人	学区人口に対する割合	54.3	1
年齢別 (75 歳以上)	83	人	学区人口に対する割合	37.2	1
世帯数	127	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	1.8	人/世帯		-	2
要介護認定者	40	人	学区人口に対する割合	17.9	3
身体障害者 (要配慮者)	2	人	学区人口に対する割合	0.9	4
知的障害者 (要配慮者)	0	人	学区人口に対する割合	0.0	4
外国人居住者	2	人	学区人口に対する割合	0.9	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口のほとんどが安曇川沿いの集落に集中している。
- 学区人口は、市内で最も少ない。
- 高齢者 (65 歳以上) は 121 人、乳幼児 (0~4 歳) は 1 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 54.3%、0.4% である。
- 高齢者の学区人口は、市内で最も少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で最も少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 40 人 (17.9%)、身体障害者 (要配慮者) は 2 人 (0.9%)、知的障害者 (要配慮者) は 0 人 (0.0%) である。
- 外国人居住者は 2 人 (0.9%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	66 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	17 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	63 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	74 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	34 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	27 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	24 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	3 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	0 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）  
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）  
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）  
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区面積のほとんどが山地で、安曇川沿いの多くの斜面が雪崩危険箇所・急傾斜地崩壊危険箇所・地すべり危険箇所・土砂災害（特別）警戒区域・山地災害危険箇所などに指定されている。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 安曇川沿いには国道 367 号が通過するが、同時に花折断層が安曇川と国道に並走する。断層部付近では地層が破碎され脆弱になることから、安曇川沿いの地域では、豪雨などの場合には嚴重な警戒が必要である。また地震時には、2次災害が発生する可能性がある。
- 花折断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 本学区の人口は、このような状況下にある安曇川沿いの集落に集中している。さらに学区内人口の割合は高齢者が半数近くを占めることから、各種災害に対して十分に留意する必要がある。
- 学区外地域と結ばれた主要な道路網は国道 367 号のみであり、国道が寸断された場合の対策も視野に入れる必要がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	葛川小・中学校グラウンド		○	○		葛川中村町 108-1
	葛川保育園	○	○	○		葛川中村町 108-1
指定緊急避難場所兼指定避難所	葛川市民センター	○	○	○		葛川坊村町 237-37
	葛川少年自然の家	○	○	○		葛川坊村町 243
	葛川小学校校舎	○	○	○		葛川中村町 108-1
	葛川中学校校舎	○	○	○		葛川中村町 108-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
葛川市民センター	葛川坊村町 237-37	599-2001

<警察 110>

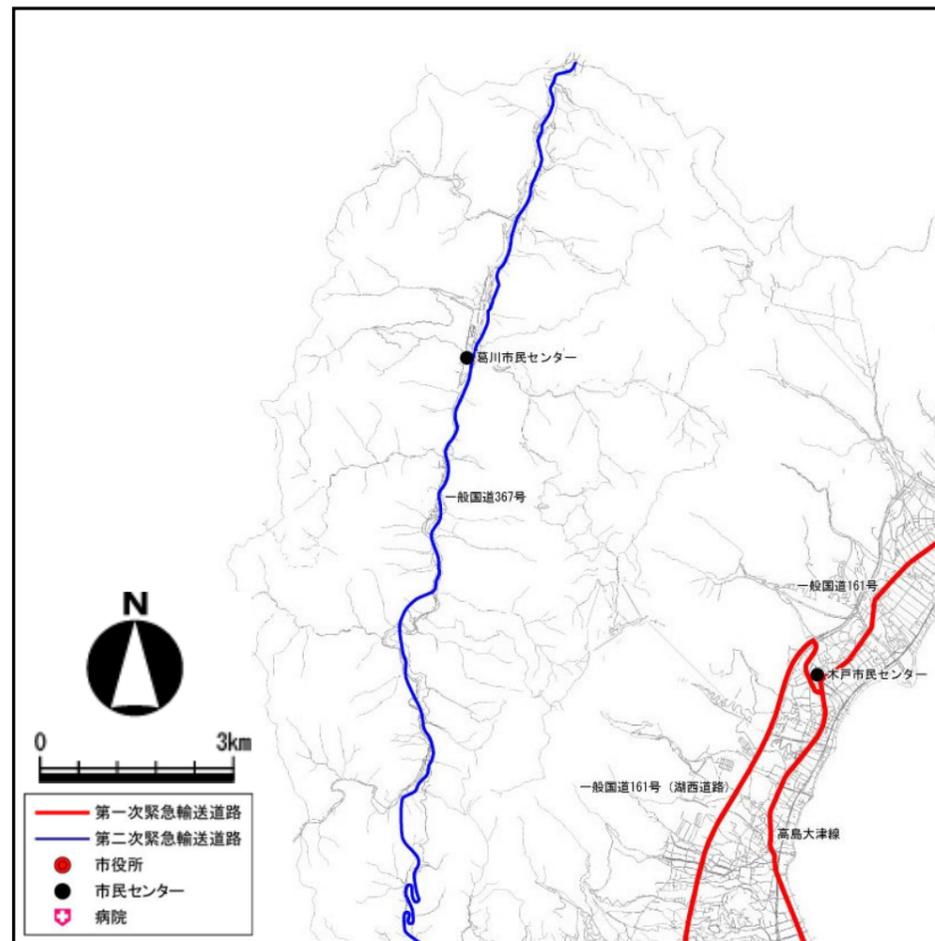
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
葛川駐在所	葛川坊村町 237-17	599-2163

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
葛川分団	葛川坊村町 234	599-2520



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害										
						死者数			負傷者数			重症者数				
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻		
ケース1	339	385	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケース2	339	385	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケース3	339	385	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

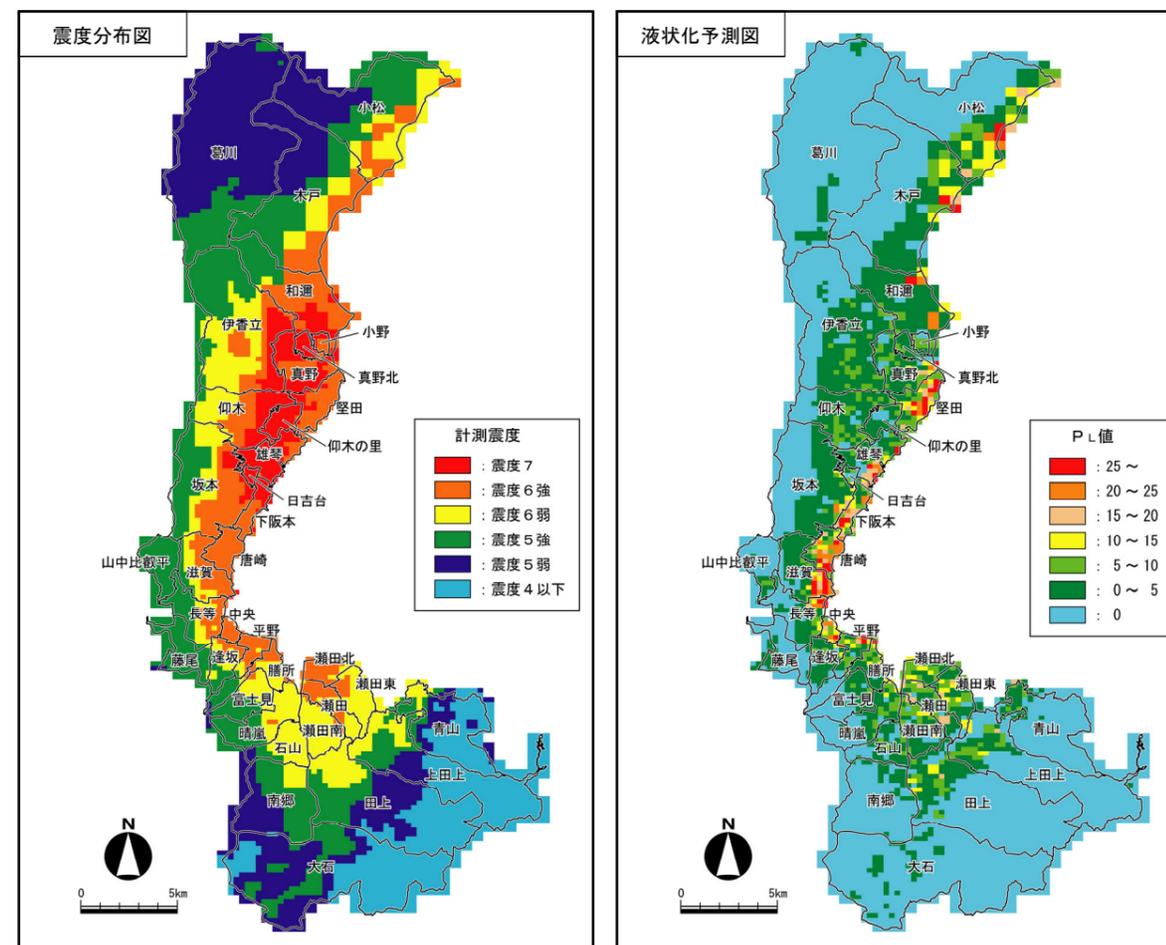
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	0	0	0
ケース2	0	0	0	0
ケース3	0	0	0	0

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3) (PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)